学位論文審査の結果の要旨

中出　了真

本論文は、日中の食生活改善による生活習慣病予防対策に関する比較研究である。日本と同様に、中国では 1990 年から 2010 年にかけて、所得向上に伴って食生活が急速に変化し、生活習慣病が増加した。日本の悪性新生物死亡率と食物摂取量の相関性に関する分析では、これまでの先行研究の知見を確認するとともに、これまで見落とされてきた悪性新生物のリスク食物群が抽出された。このことは、特定の食物摂取についての分析だけではなく、網羅的な食物摂取についての分析によって、有効な悪性新生物予防が可能性であることを示唆している。中国でも疾病予防計画が実施されているが、悪性新生物は主要な死因となっている。このため食生活と健康に関する全国レベルでの網羅的な統計データの収集システムの確立が重要な課題となっている。

本論文は、日中両国の食生活改善による悪性新生物予防に関する多くの新しい知見を提供している。本学位論文審査委員会は、本論文の内容、構成および公表論文数などから、全員一致で本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断して、合格と判定した。